

平成29年度授業改善推進プラン【家庭】

- 〔教科の観点〕 ①生活や技術への関心・意欲・態度 ②生活を工夫し創造する能力
③生活の技能 ④生活や技術についての知識・理解

| 教科 | 生徒の実態と分析 | 指導上の課題 | 授業改善の視点と方策 |
|----|---|--|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲・関心のある生徒が多いが、一部生徒の中には、意欲の持続が難しい生徒も見受けられる。 ○ 小学校範囲の基本的な技能・知識に個人差はあるが、前向きに取り組む姿勢がある。 ○ 宿題を提出しない生徒がみられる。(主に男子生徒) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 食生活に興味をもち、真面目に取り組んでいるが、学習したことを生活の中で積極的に実践する意識を育てる授業の工夫が必要である。 ○ 小学校範囲を復習するような授業の展開を図る必要がある。 ○ 学習した内容を実生活に生かす宿題を出題しているが、各担任と連携し宿題の提出を促していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に興味・関心をもち取り組んでいけるよう、分かりやすい授業の教材・教具の工夫を行う。 ○ 基礎・基本の定着を図るワークシートの工夫をしていく。 ○ 実生活に生かせる実験等を取り入れた授業を行い、意欲の向上を図るとともに、自分の意見を表現する機会を増やす。 ○ 物づくりの楽しさと達成感を知る教材を選択する。 |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に授業に前向きに、集中して取り組んでいる生徒が多い。一部集中の持続が難しい生徒もみられる。 ○ 被服製作のミシン学習においては、得手・不得手意識から進度に個人差がみられる。 ○ ミシン学習においては小学校での知識は身に付けている生徒が多い。 ○ 宿題を期日内に提出できる生徒が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活に役立つ小物製作には意欲的に取り組んでいるが、1時間1時間の授業内で課題を完成させる授業の工夫が必要である。 ○ ミシン学習においては苦手意識を取り除く教材の工夫が必要である。 ○ 製作以外の理論学習では、学習したことを生活に実践していく知識・技能の定着を図る授業の工夫をしていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小物製作においては、段階ごとの見本掲示や視覚に訴えた視聴覚機器を使用し、全員の授業内完成を目指す。 ○ 全体が同じ進度になるように作業が遅れがちな生徒に配慮する。一人1台のミシンの数の必要性を感じる。 ○ 本時の目標を明確にし、解りやすい資料プリントを作成し、基礎・基本の定着を図る。また、実生活に生かせる実験を取り入れていく。 |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に真剣に取り組む生徒が多いが、隔週のため、既習事項を忘れてしまう生徒が多い。 ○ 生命のルーツの学習を通し家族と自分との関係を改めて考え、家族生活の中での自分の役割を見つめる生徒がみられる。 ○ 幼児の生活に役立つ小物製作は全体的に興味をもって真剣に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の授業とのつながりや授業に意欲的に臨む姿勢のあり方の工夫する必要がある。 ○ 学習内容を他教科とどう関連させていくか、実生活とどう関連付け、興味・関心を高めていくかが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を明確にすると同時に、前時の振り返る授業展開を行う。 ○ 見本掲示やビデオ学習を通して、保育の重要性や保育の関わり方などを自己と関連させ、将来の人生設計も視野に入れて考えられる授業の工夫を行う。 ○ 小物製作では、手作りのよさを実感するような教材を選択していく。 |